

わ

が

街

わ

が

故

郷

株式会社NTN三重製作所と 桑名市多度町

株式会社NTN三重製作所の紹介

住 所：三重県桑名市多度町御衣野
3601番地25

従業員数：640人

事業の内容：各種軸受及びその部品の製造販売等
ラジアルボールベアリング、アンギュラボールベアリング、ニードルローラベアリング、テーパローラベアリング、各種ローラ

株式会社NTN三重製作所は三重県と岐阜県の県境を成す養老山脈の南端に聳え立つ多度山の麓、揖斐川と長良川、そして木曾川が交わるひととき自然の景色が美しい桑名市多度町にあります。

創業開始は2004年4月、激化する国際競争に打ち勝つため、NTNグループが長年にわたり培ってきたベアリングの精密加工技術や独自のノウハウを集積し、21世紀のベアリング製造のモデル工場として誕生いたしました。

2004年から稼働を開始した第1工場は、建設機械や風力発電など、主に産業機械向けの軸受を生産しております。2007年2月に完成した第2工場は、NTNの産業機械向けころ軸受の需要増加に対応し、ころ（ローラ）を中心に生産しています。2008年8月には、第3工場が本格稼働を開始しました。

また、3工場とも、環境への負荷を低減した工場であることも特徴です。NTNが開発した「研削スラッジ固化装置」を導入し、ゼロエミッションを実現しています。

敷地内には風力発電機、太陽光発電パネルを設置し、自然エネルギーを有効に活用しています。



三重製作所の全景

工場周辺の紹介

<御衣野の由来>

工場所在地の『御衣野』の由来は、日本武尊（ヤマトタケルノミコト）が東国への出征の道中、尾津崎（現：御衣野の草薙神社）に立ち寄ったときに、松の木に太刀を置き食事をしました。しばらく休憩し、また旅立ちましたがうっかりと太刀を置き忘れたそうです。

東国平定の帰り道にふたたびこの地を訪れ、忘れた太刀がそのまま残っていたことを喜び詠

んだとされる句、「尾張に 直に向へる 一つ松
あはれ 一つ松 人にありせば 衣^{ころもあわわ} 著せましを
太刀^は佩けましを」は「尾張の国を真っ直ぐに見
ている一本松よ。もしお前が人間であったのなら、
衣を着せて刀も持たせてやろう」との意味
から御衣野と名付けられたそうです。

<草競馬場と農園>

工場近くには、毎年3月と11月に多度近郊の
馬主の大イベントとなる草競馬が開催される競
馬場があり、春は満開の桜に囲まれた競馬場で
公営とは別の趣がある競馬を楽しめます。

またその隣にある『アイリスパークみぞの』
は、「ライフスタイルの共存」をテーマとした
「ふれあい農園」があり、芋掘りや苺などの農
産物の収穫が楽しめます。



満開の桜に囲まれた草競馬場

わが街のみどころ

<男子プロゴルフツアーの開幕戦>

高校生プロゴルファー石川遼選手のデビュー
戦で有名となった男子プロゴルフツアーの開幕
戦「東建ホームメイトカップ」の会場が桑名市
多度町にあります。

今年も、石川遼選手効果で開幕戦史上最多動
員数(4日間合計3万7427人)をマークし、盛り
上がりを見せました。毎年、三重製作所も決勝
ラウンドの2日間(土・日)は従業員駐車場を
臨時駐車場として提供させていただいており、

この日ばかりは普段ではあり得ない大渋滞とな
ります。

<多度祭 上げ馬神事>

わが街、多度町の歴史と文化とえば、多度
祭『上げ馬神事』を語らずにはいられません。

多度祭は5月4、5日に多度大社で行われる
例祭で、その起源は約700年前の南北朝時代か
らといわれ、一時信長の兵火に合い中断しまし
たが、桑名藩主・本多忠政により復興し、以来
受け継がれています。上げ馬神事は6地区から
神占いで選ばれた若武者姿の少年騎手を乗せた
馬が、境内に造られた急な斜面を一気に駆け上
がり、高さ2mあまりの上げ坂を一気に駆け登っ
ていく勇壮な祭りです。



上げ馬神事

多度祭には古くから農作の時期や豊凶が占わ
れてきましたが、近年は景気の好不況など様々
なことが占われており、勇壮な神事・祭馬にあ
やかり、商売繁盛・社運隆昌・学力向上等を願
う人々も多いとのこと。もちろん、三重製
作所も新年には安全祈願と社業隆盛を祈願し
ていただいております。

境内を出て表通りを歩けば、明治時代に建
てられたという築100年以上の木造家屋数件が並
びます。鯉料理屋や特産品の多度豆を売る店が
あり、落ち着いた雰囲気漂わせています。また
多度大社は、「北伊勢大神宮」とも称され、

